Ⅰ．取組の概要

（事業推進責任者）
現代 GP ワーキンググループ長
熊澤　栄二

1. 取組の主旨･目的

1.1. 取組の主旨

環境改善に取り組むために必要となる基礎知識・技術，取り組む姿勢等を育成する教育システムを構築するために，本校が立地する津幡町にある「河北潟」を生きた教材として実践的な教育に活かす取組である。地域の要請である河北潟の環境の再生を目標として，本取組では「河北潟の水質を浄化する技術的な環境教育」そして「学内外に対して郷土愛を育成するリテラシー教育」この二つの教育を柱とした教育改善システムを構築し，常に環境改善を意識した技術者を育成することを目指す。

1.2.取組の目的

河北潟の環境再生は周辺住民の悲願であり，住民をはじめとして関連 NPO 団体，企業，および本校と連携に関する協定を結んでいる津幡町を始めとする地方自治体と連携をとりながら教育としてこれを実践するのが「郷土愛育成による環境改善教育」である。そしてこの取組を通じて「地域で活躍する中堅技術者として，その地域の風土を深く理解し愛着を持ち，技術と自然環境・人間環境との調和を図る総合的な技術者」すなわち「地域総合型技術者」を育成することが目的である。地域総合型技術者の育成において，以下の能力を育むことが目標となる。

1. 「自然環境・人間環境」との調和を図る総合技術者
   →身近な地域に愛着を感じ，進んで地域貢献ができる技術者
2. 「技術と自然環境」との調和を図る総合技術者
   →幅広い視野から具体的な問題を科学的に分析・解析し解決できる技術者
3. 「技術と人間環境」との調和を図る総合技術者
   →専門技術の職能を介して，人と人とが連携して問題解決の立案ができる技術者

また右図のサイクルを回すことで本校独自の教育システムを確立すること，さらに，本取組みを通して，人材の循環，資源の循環を生み出していくことで地域活性化に対して貢献してくことを目的としている。

1.3. 教育方法と効果

本取組みにおける教育システムは，右図で示す様に，「学ぶ」の矢印で示した「河北潟に学ぶ」と，「教える」「創る」の矢印で示した「河北潟に還す」の２つのパートから成る。

「河北潟に学ぶ」では，河北潟を中心にして培われてきた北陸の文学，歴史はじめとした郷土の文化を「学ぶ」ことにより，「郷土愛」を育み，併せて環境の現状を含め，自然科学の視点から，多面的に河北潟を理解する。その知見・知識・経験を広く地域の中学生に対して伝える活動を通して，学生の郷土愛の定着を図る。

「河北潟に還す」では，「河北潟に学ぶ」で習得した知見・知識をもとに，本科各専門課程で習得した専門知識を融合させて，学生自らが河北潟の様々な問題に対して工学的な提案と実践を行い，将来の地域に生きる環境を常に配慮する技術者としての実践力を養う。

以下に，本科および専攻科全体のカリキュラムとして取り組む教育メニューを示す。

教育メニュー		取組概要
河北潟に学ぶ	河北潟リテラシー	地元の貴重な資産である「河北潟」について文学、歴史、環境の視点からその魅力を学ぶとともに、ボートやレガッタなどの生涯体育教育により体験的にも河北潟を学ぶ。 特に国外の環境問題とも比較を通じて国際的視野を広げる。
	中学校出前授業	河北潟リテラシーで学んだ河北潟の知識・経験を活かして、学生が近隣中学校に出向いて、中学生を対象とした授業を実践する。
	環境改善の実施 1	間伐材を活用した「木工沈床」の製作、水質浄化の実験を通して、郷土の森林維持から水質改善までのプロセスを学ぶ。
河北潟に還す	河北潟フォーラム	津幡町 学町連携推進事業の一環として、フォーラムを開催し、広く地域住民の方、環境改善NPO団体、行政、そして地元企業の方々との意見交換および取組について評価を行う。
	環境改善の実施 2	河北潟に関する諸問題についてプロジェクト型の演習として学生の独自の創造性を活かした工学的な提案および製作を実施する。
実施体制	教育システム構築	本科における教育制度の改革、資格整備、教育方法の整備など
		専攻科における教育制度の改革、資格整備、教育方法の整備など
	地方自治体等との協力体制	出前授業、環境改善の実施に関する協力および国際交流、英語圏の大学との協定を推進する。